



頭書繪入

補正戒訓書

假名交





上総忠光の平氏の後、まて上
 徳五郎兵衛と佐々木を羽後
 建久三年小永徳寺に新堂と
 經營する所頼朝らと檢閲
 せしる忠光魚鱗にてその眼
 を蔽ひ偽りて眇なる者れを
 一と扱と情て縣後のがふ
 経多し活て頼朝と扱て一
 教と名を改む杉原殿小と
 知とと惶々時とあて捕へ問
 志心忠光有の信と云てられ
 神宗母を都てとれと扱と

泉の親衛の信の人の人あり
 孫滿仲の信あり初力勇氣
 弟人小傑少と建曆愛の面
 小傑謀を信とて堂與十除
 人ばおの囚虜となる工名
 某親衛が信れたる石と探
 てとを捕人とがと親衛工
 弟と教とて去る所不取を
 弟と世小信と親衛
 大船と有りて
 水陸川上下
 こと

大日本國之

山城 八郡列

大河 八郡列

和泉 三郡列

和泉 三郡列

和泉 三郡列

東海道 十郡列

伊勢 四郡列

伊勢 四郡列

志磨 二郡列

志磨 二郡列

遠江 十郡列

遠江 十郡列

駿河 七郡列

駿河 七郡列

伊豆 三郡列

伊豆 三郡列

相模 八郡列

相模 八郡列

武藏 廿郡列

武藏 廿郡列

上総 十郡列

上総 十郡列

下総 十郡列

下総 十郡列

補加

楠正成於橋井為

嫡子心以訓

一條

美成乃死

て下なる氏

甘受地

立命

彼に

父の一生

於屋

石見	出雲	伯耆	同	但馬	丹波	丹波	山陰	佐渡	越後	越中	能登	越前	美濃	北陸	出羽	陸奥	上野	信濃	飛騨	美濃	近江
六石	十石	六伯	七同	八但	六丹	六丹	申八	三佐	七越	四越	四能	五越	三美	七北	十出	五陸	九上	十信	四飛	十美	十近
列	列	列	列	列	列	列	中	列	列	列	列	列	列	列	列	列	列	列	列	列	列

補注

まきこもも白く成

改めむ竹を葉も

其のむと敷さるる

汝能く母を産

と為ふ一族良佐

教ぬの人と附玉

わさるる胡敵家

来りも竹の葉

まきりあ人海

玉我乃行乃河

肥前 豊前 豊後 筑前 筑後 西海 土佐 伊豫 讃岐 阿波 淡路 紀伊
 八州 九州 十州 十一州 十二州 十三州 十四州 十五州 十六州 十七州 十八州 十九州 二十州
 山陽道 播磨 美作 備前 備中 備後 安藝 周防 長門 南海道 紀伊
 八州 九州 十州 十一州 十二州 十三州 十四州 十五州 十六州 十七州 十八州 十九州 二十州

大國數多し
 下 孝 友 弟 恭 忠 義 廉 恥 節 操
 行 仁 義 禮 智 信 忠 孝 友 弟 恭 忠 義 廉 恥 節 操
 上 仁 義 禮 智 信 忠 孝 友 弟 恭 忠 義 廉 恥 節 操
 此 者 乃 忠 孝 友 弟 恭 忠 義 廉 恥 節 操
 身 一 長 連 枝
 此 者 乃 忠 孝 友 弟 恭 忠 義 廉 恥 節 操

備前 備中 備後 安藝 周防 長門 南海道 紀伊
 八州 九州 十州 十一州 十二州 十三州 十四州 十五州 十六州 十七州 十八州 十九州 二十州

三	三申 <small>の</small> 日 <small>ひ</small>
四	四亥 <small>の</small> 日 <small>ひ</small>
五	五卯 <small>の</small> 日 <small>ひ</small>
六	六午 <small>の</small> 日 <small>ひ</small>
七	七酉 <small>の</small> 日 <small>ひ</small>
八	八子 <small>の</small> 日 <small>ひ</small>
九	九辰 <small>の</small> 日 <small>ひ</small>
十	十未 <small>の</small> 日 <small>ひ</small>
十一	十一酉 <small>の</small> 日 <small>ひ</small>
十二	十二戌 <small>の</small> 日 <small>ひ</small>

二	二巳 <small>の</small> 日 <small>ひ</small>
正	正 <small>富</small> の月 <small>つき</small>
願	願 <small>成就</small> 吉 <small>月</small>
大	大 <small>陽</small> の月 <small>つき</small>
薩	薩 <small>摩</small> の月 <small>つき</small>
金	金 <small>汗</small> の月 <small>つき</small>
壹	壹 <small>夜</small> の月 <small>つき</small>
對	對 <small>馬</small> の月 <small>つき</small>
國	國 <small>々</small> の月 <small>つき</small>

冨で良後由幸さ
 中平見及會しを
 院ま主と教み
 主の脚院を頼く
 我天下の業共

思ひとあて事お
 父の徳む毎
 家の子脚院氏
 杖助する業免又
 おくには長し自身を

補
 九
 五

堅田彦雁

孝あまき

とんく

くづらま

おちき

かこち

あらし

おらの



命はくはは後徳心留

因使とく文社心

毎母は徳

す魚うび家

夢久心志事

唐神歌雨

衆の

おの

おの

ゆりく

おの

おの

おの

おの



たくれ義理心

尋究く家

懐と徳心

法心と徳心

車心と徳心

比良早霧

香たぐ

幸ううわん
たがもま

これれ

はくわんか

道る
うん



はくわんか
たがもま

捕川戒

捕川戒

捕川戒

捕川戒

三舟晩鐘

おのしあま

その晩

ちんちん

はくわん

まが

まが

まが

まが



捕川戒

文武比良早霧

捕川戒

捕川戒

捕川戒

東洋の海
船は
ついで

ついで
ついで
ついで

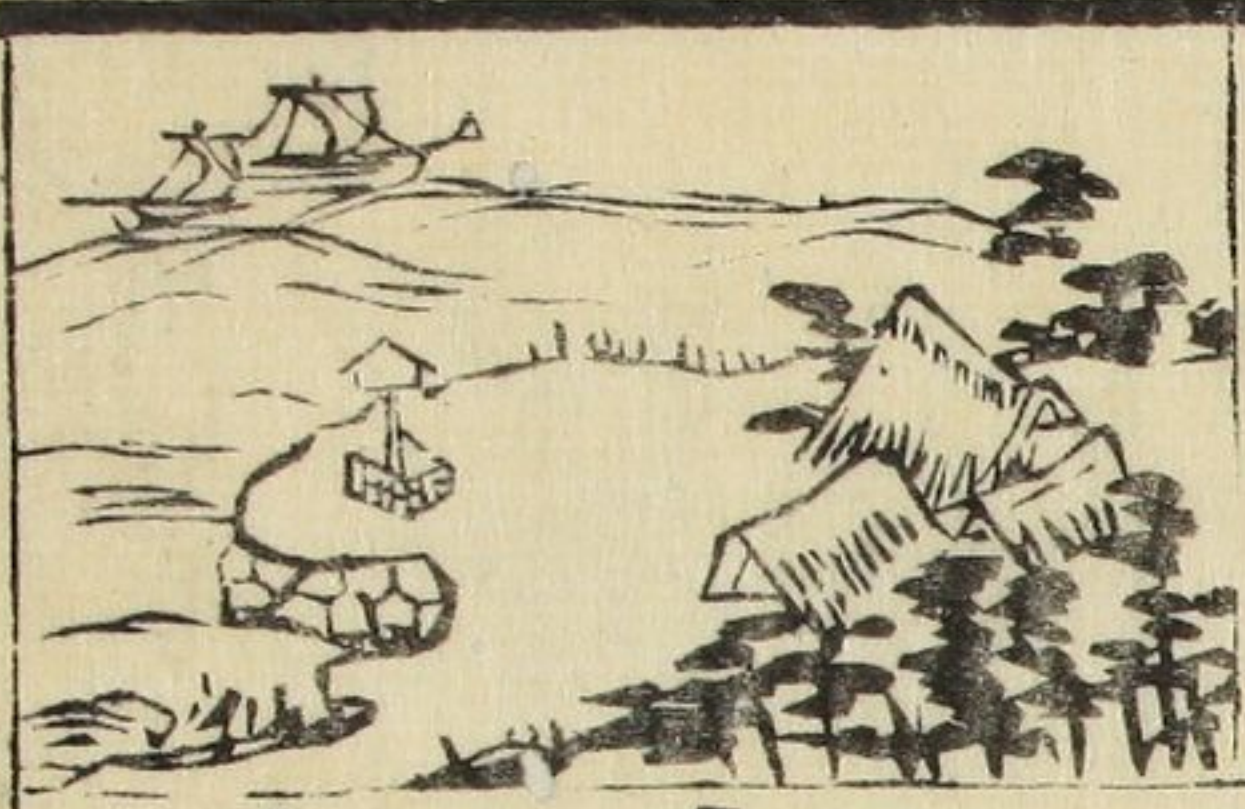
ついで
ついで
ついで



大徳寺
大徳寺
大徳寺

大徳寺
大徳寺
大徳寺

大徳寺
大徳寺
大徳寺



時政送年
時政送年
時政送年

心影
心影
心影

心武
心武
心武

清と静
清と静
清と静

清と静
清と静
清と静

清と静
清と静
清と静

清と静
清と静
清と静

清と静
清と静
清と静

清と静
清と静
清と静

清と静
清と静
清と静

辨田能

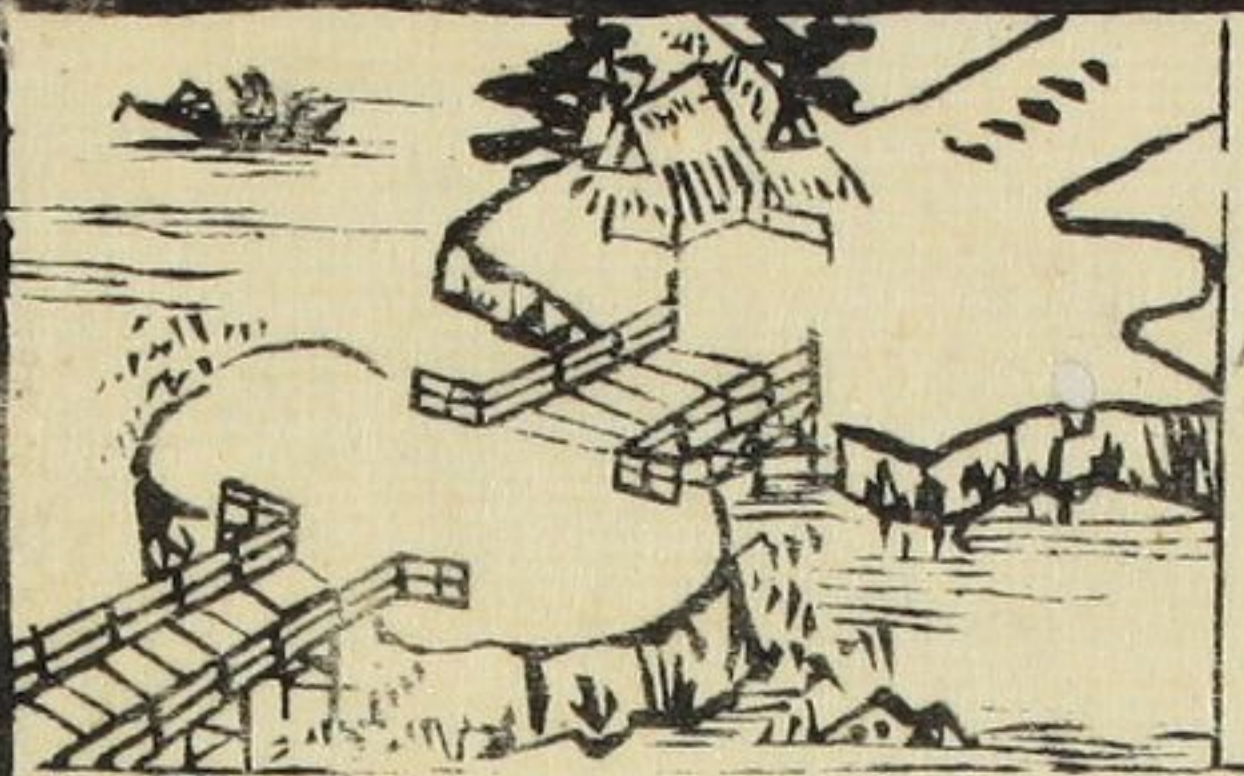
名山

すま

神目

つら

長



仁徳と功を多

下は安堵の凡俗

徳とよす途凡

より苦のひさ

世時不美て人

虎狼の心とちりて

胡也ハ敵とあらま

味方とある是と考

て高類とみる凡

世の時と義とあり

名山

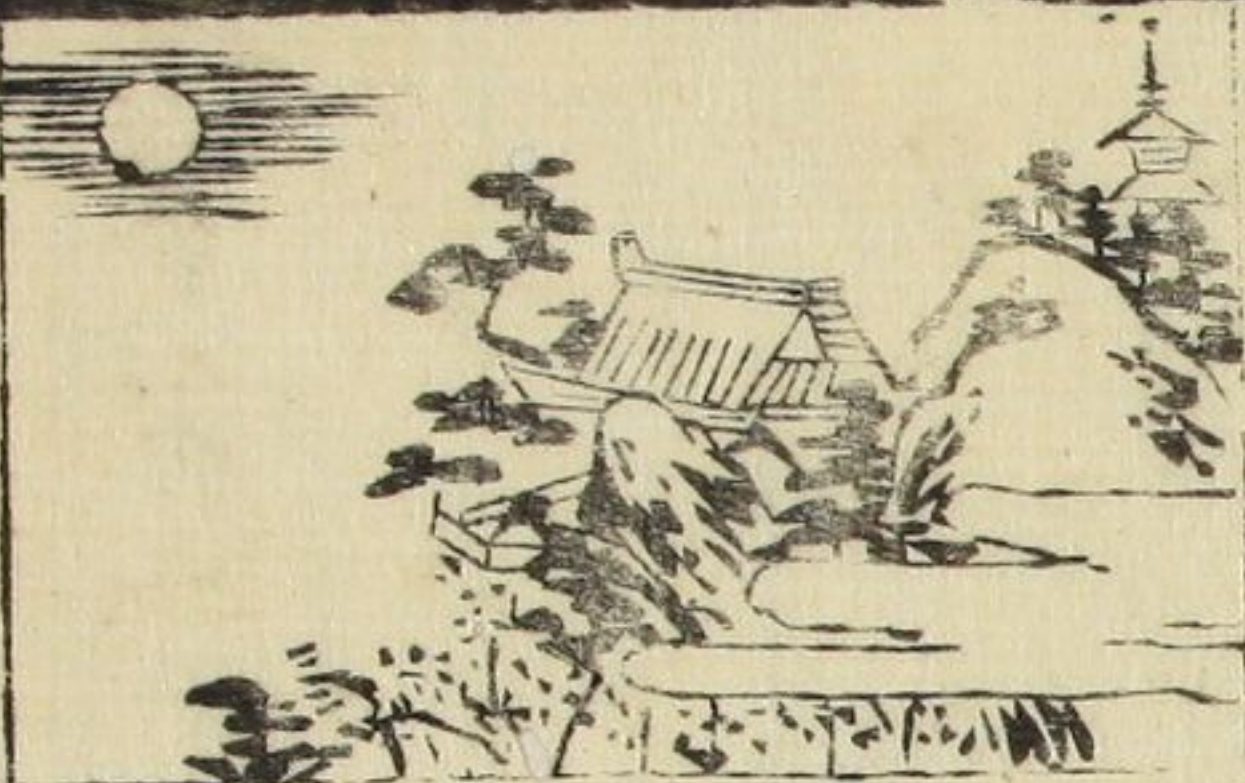
山

海

海

海

海



五音五性の事

カキクケコ

ウケのどくま

○木性

たんぐ

○龍言

たんぐ

○辰忠

たんぐ

○火性

たんぐ

○土性

たんぐ

○水性

たんぐ

○風性

たんぐ

○雷性

たんぐ

○電性

たんぐ

○磁石

たんぐ

○鉄

たんぐ

忠誠を以て身と

報を以て命を以て

人を守りて名を以て

たんぐを以て徳を以て

とる道と徳を以て

弓馬と射法を以て

合戦の道と名譽を以て

利を以て身と徳を以て

公法を以て先祖を以て

と徳を以て命を以て

おまきあり

サシスセツ

あつたあつた

○金性補

たふバ

○佐佐木

周々仙尊

熱帯者

おまきあり

一三三六七

あつたあつた

○水性補

たふバ

○海道橋

馬長堂

金右衛門

あつたあつた

あつたあつた

あつたあつた

あつたあつた

あつたあつた

心は悪く戒書と

勤切なる者と書

怒るる者と書

武士と書

勤るる者と書

成じ明智の書

大將の書

忠の書

上は備の書

一人の志と書

十干廿四體

甲甲甲甲

乙乙乙乙

丙丙丙丙

丁丁丁丁

戊戊戊戊

巳巳巳巳

庚庚庚庚

辛辛辛辛

壬壬壬壬

癸癸癸癸

十二支の四體

子子子子

丑丑丑丑

寅寅寅寅

卯卯卯卯

辰辰辰辰

巳巳巳巳

午午午午

未未未未

申申申申

酉酉酉酉

戌戌戌戌

亥亥亥亥

唯千萬人よむけん

て不汝法くもを物

辱しと殺すも覚

了も心よ無るもの

天道我と加へ佛神

擁護有て一に世集

王義の心よ私と愛を

後代の養民得る家の

也權又由作

建武二年二月八日

系市利高行

羊田霜姿